

第3節 造成・雨水排水施設計画

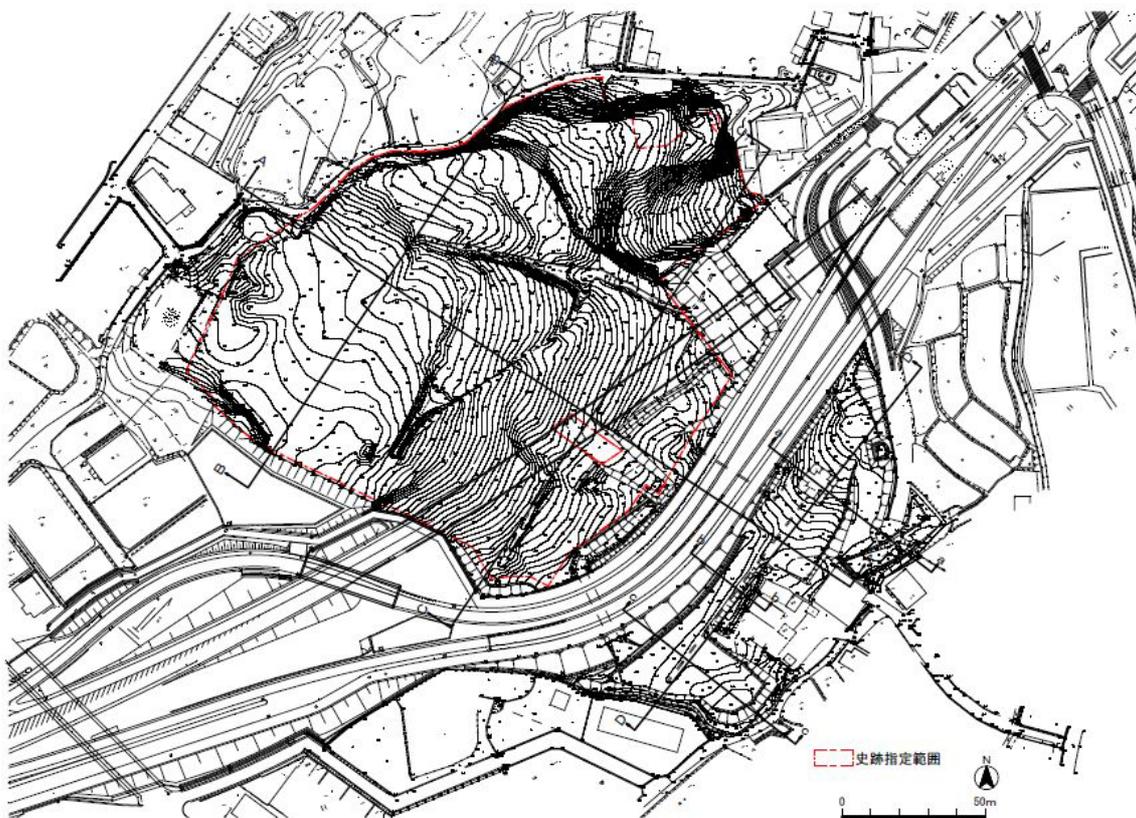
造成計画

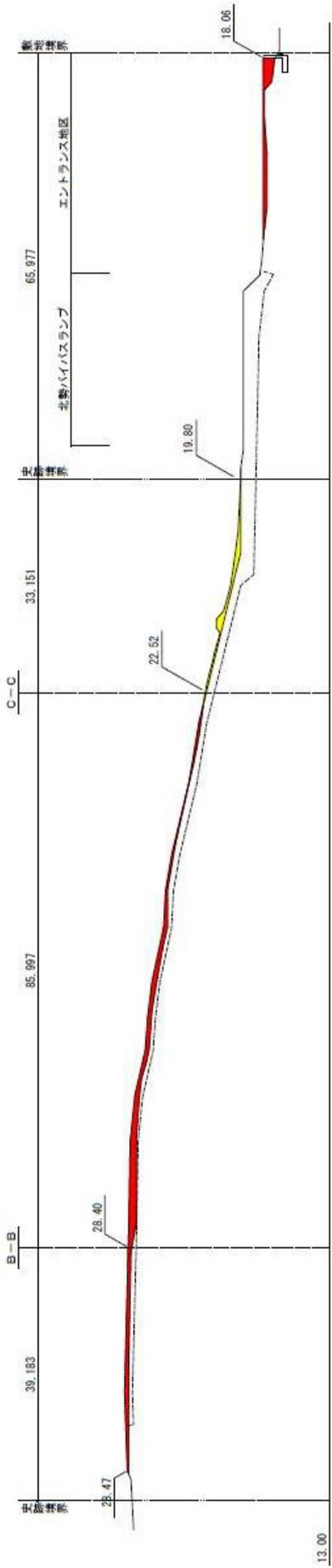
【基本方針】

- ・発掘調査等により検出された、遺構レベルに基づき、整備レベルを決定するものとする。
- ・遺構レベルの確認成果を踏まえ、後世において削平された箇所においては周辺地形と自然な形ですりあうように盛土し、可能な限り、往時の地形の復元に努める。
- ・造成工事に際しては、遺構の保存を前提とし、また整備施設の基礎高や植栽の樹根長等を考慮し、遺構面を必要な厚さで覆土することを原則とする。
- ・道路、排水、調整池等の配置計画を踏まえ、土量バランスを考慮する。
- ・北勢バイパス側道からの入口部と史跡指定地地区とを結ぶ横断地下道の整備高さを基本に、雨水排水を考慮して整備レベルを決定する。

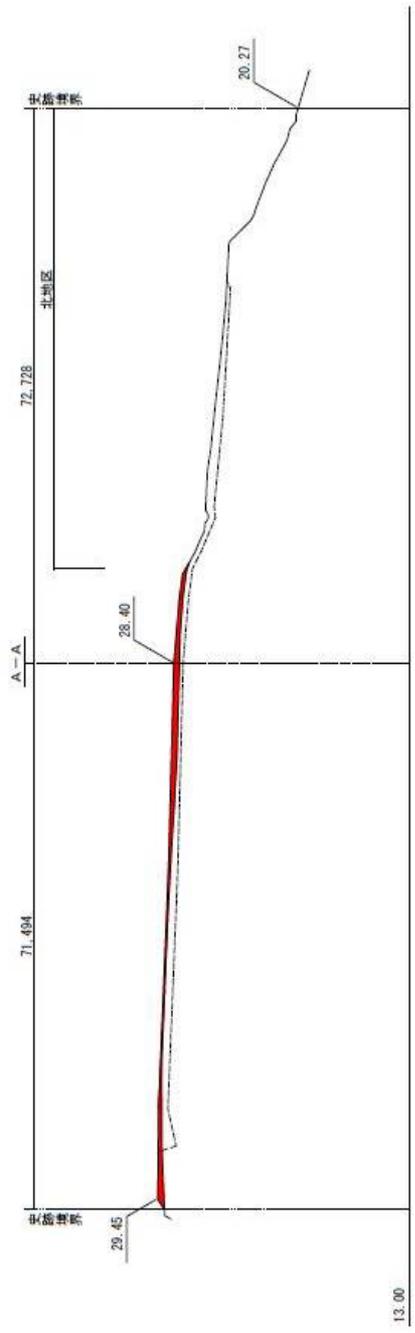
【法面工】

- ・法面勾配は、道路土工指針及び各種法規制を遵守し、切土法面 1 : 1.5、盛土法面 1 : 1.8 とする。また法面には、直高 5m ごとに幅 1.5m の小段を設置する。
- ・エントランス地区東側については、敷地をできるだけ広く有効利用するため、現場施工コンクリート L 型擁壁を設置する。

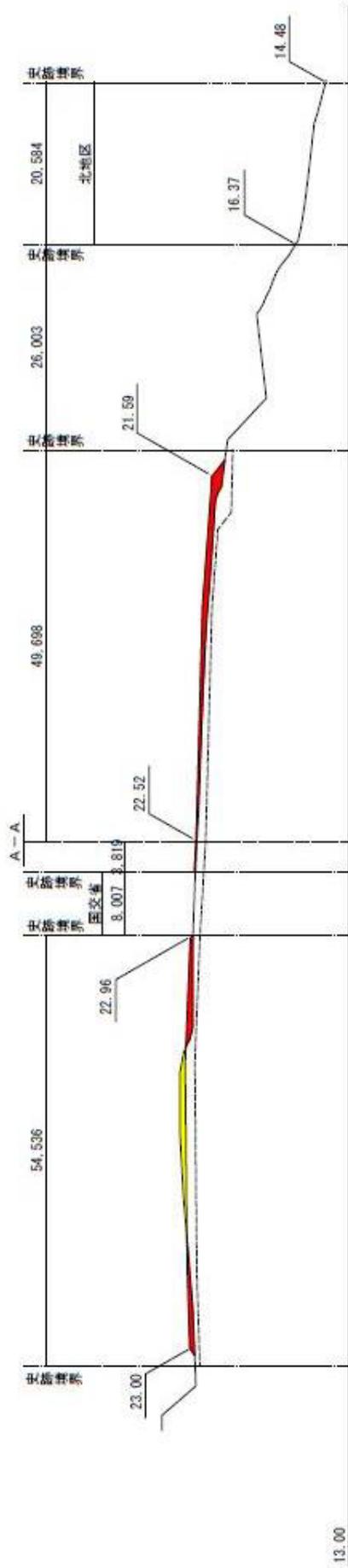




A-A断面図

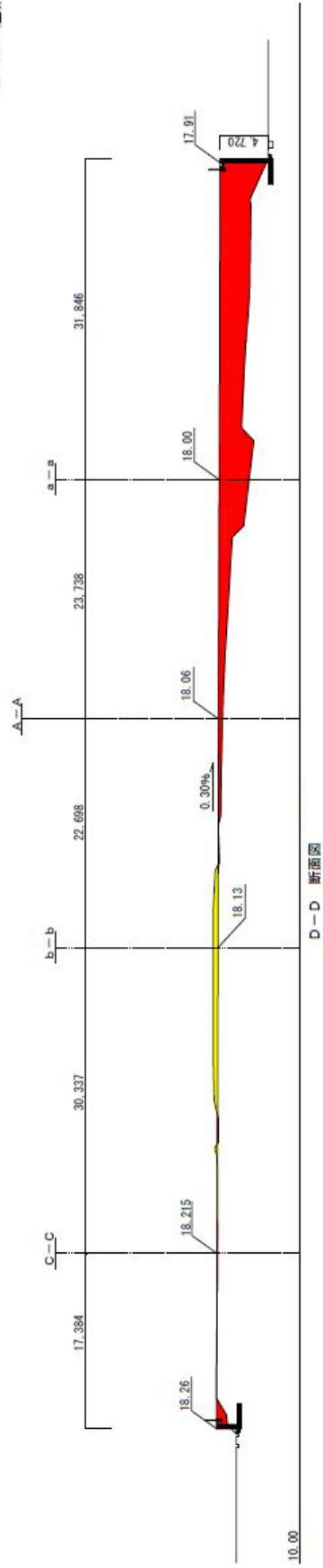


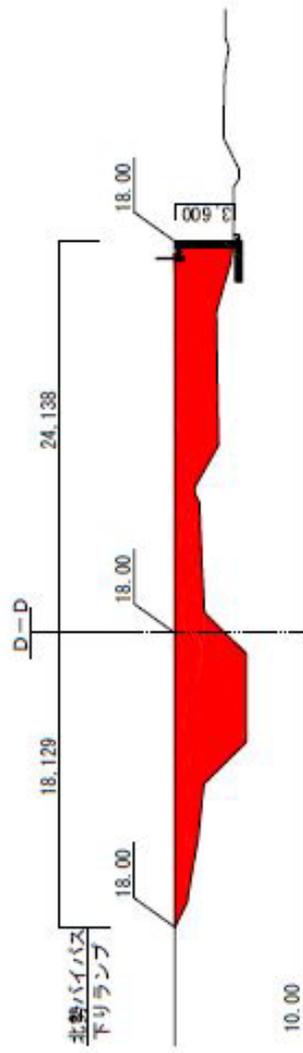
B-B断面図



C-C断面図

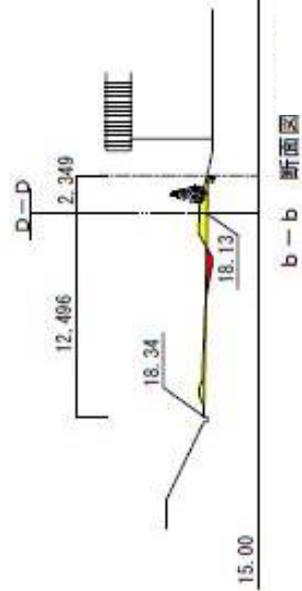
- 盛土
- 切土
- 遺構面



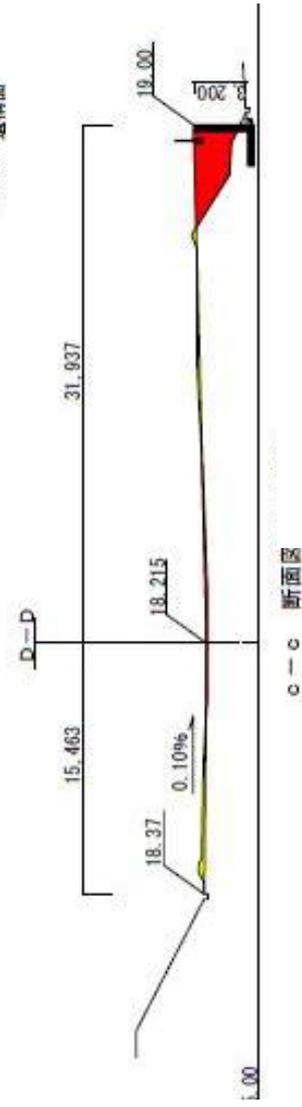


a-a 断面図 S=1/400

- 盛土
- 切土
- 遺構面



b-b 断面図



c-c 断面図

雨水排水施設計画

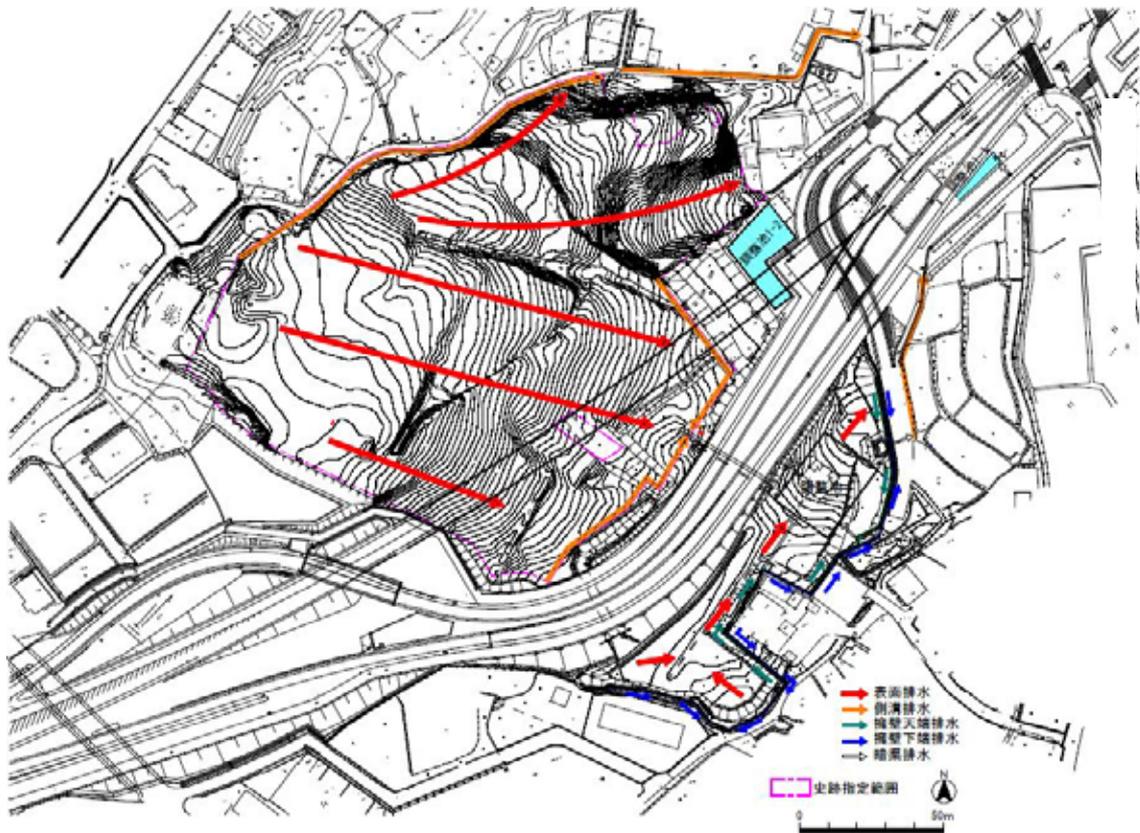
【基本方針】

雨水は、開発に伴う流出量の増加抑制を図るため、区域内に調整池を設置し、洪水調整を行った後、公共下水（羽津茂福雨水1号幹線（1分區））へ放流させる。調整池計画にあたっては、流末水路の調査を行いその結果を基に、以下の方針で検討する。

- ・調整池の容量及び構造は、三重県が策定している調整池基準に基づくものとする。
- ・調整池の計画位置は、開発区域の雨水の集水が容易かつ流末河川への放流も容易な低地部であるエントランス地区の北側に設けるものとする。
- ・調整池の構造は、北勢バイパス側道側からの出入口にあたる場所に調整池を設置することによる安全性の面及び、計画地の有効利用から掘り込み構造(地下式)とする。

【地区外排水】

整備に伴い、地区外流量が増加することが懸念される。そこで、地区外の排水検討を行い、改修を必要とする場合は改修整備の検討を行う。



第4節 植栽計画

計画地に導入する植栽としては、地域の在来種や万葉植物を中心に用いるものとする。

また、計画地で実施された花粉分析結果からは、古墳時代以降、コナラ亜属とスギ属が優先しシイノキ属、アカガシ属、シイノキ属、クリ属の花粉が検出されている。草本類としてはヨモギ属を主体とした草地であったと想定される。その他、検出されたものとして、モミ、ツガ、マツ、コウヤマキ、ヒノキ、ヤマモモ、アサダ、ハンノキ、ケヤキ、サンショウ等樹木とイネ、カヤツリグサ、ウナギツカミ、ヒユ、キンポウゲ、アブラナ、キカシグサ、セリ、キク、タンポポ等の草本が確認されている。

史跡指定地地区は、久留倍官衙の往時の地形復元や建物跡等の表示等史跡の景観を復元するため遺構の分布状況に合わせ適宜緑陰樹程度の植栽に止める。ただし、バイパス橋脚部分は、立入禁止のため生垣で囲う。なお、史跡指定地地区の北側は里山景観整備とする。

エントランス地区側は、民家、アパート等が隣接しているため境界部分に相互の視線を遮る遮蔽植栽を施す他、史跡のエントランス部分としての花木等を修景木として補植する。

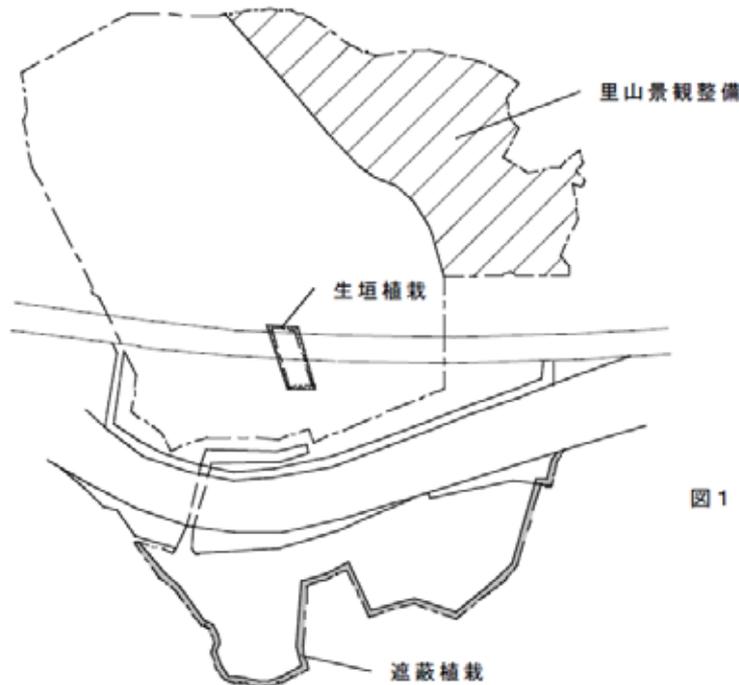


図1 植栽配置図

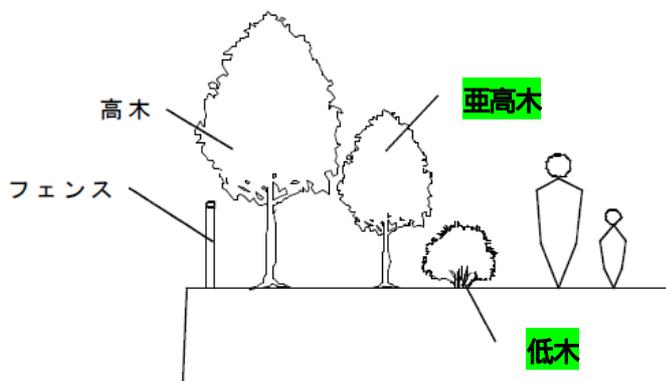


図2 遮蔽植栽イメージ

聖武天皇東国（伊勢）行幸の折、大伴家持が和歌（万葉集所収）を詠んでいる。

第5節 管理・運営計画

基本条件

管理・運営の基本条件は、以下のことを念頭に計画を行う。

史跡公園の目的・活動内容は、見学・学習・体験活動・憩いの場であり、効果的な運営の実現には、活動体系を理解し、実践することができる運営体制とする。

史跡公園は、市民にとっての憩いの場となることから、原則、常時開放とする。ただし、史跡公園の目的、利用者像の利用形態から、恒常的な夜間利用は想定しない。

史跡公園内は、国道1号北勢バイパスが横断していることから、道路通行に支障のない管理・運営を行う。

史跡公園は、地域住民の住居と隣接しているため、地域住民の生活に十分に配慮した管理・運営を行う。

史跡公園は広大な敷地であり、安全で快適な公園利用を保つため、人的管理と機械警備を適切に行う。

施設等の管理・運営主体

史跡地の管理主体は四日市市であるが、日常的なガイダンス施設の管理・運営については常勤とし、ボランティア団体などとも計画・施工段階から連携を図りながら行うものとする。また、駐車場や夜間の警備については、機械警備や警備委託により行うものとする。

施設等の管理・運営条件

ガイダンス施設の管理・運営条件

月曜日（祝日の場合はその翌日）・年末年始以外は開放とする。

ガイダンス施設の利用は無料とする。

夜間閉鎖を原則とし、機械警備を行う。

駐車場・トイレの管理・運営条件

夜間閉鎖を原則とし、機械警備を行う。

史跡公園全体の管理・運営条件

史跡指定地地区及びエントランス地区の外周部は安全性の面から柵等を設置し、出入口以外は閉鎖管理とする。

夜間照明は、夕方利用や防犯上必要な範囲で設置する。

復元建物周辺などについては、機械警備を行う。



柵 (柵木県 おやま縄文まつりの広場)



閉鎖案内 (福島県 大安場史跡公園)



機械警備 (茨城県 平沢官衙遺跡歴史ひろば)

第6節 利活用計画

学習・普及計画

四日市市立博物館の事業とも連携を図りながら、広大な史跡地やガイダンス施設を利用した体験学習や語り部・歴史発見ボランティアなどの活動支援を行う。利用対象は、子どもから大人まで、誰でもが利用できるようにする。

1) 体験学習などの企画

古代の役所の仕組みや奈良時代の生活などを学ぶ為に、様々な体験学習プログラムを実施する。体験学習プログラムは、学校行事の一環としても利用できるプログラムとするため、小中学校の教員とも連携を図りながら実施する。

【学校教育の利用者】

市内と三重郡内の小中学生が想定される。利用者の想定数は、市内でも史跡地に近い小学校(車で10分以内)の利用率は高いと想定されるため、80%と設定し、距離に準じて比率をかけた。中学校に対しては、利用率は小学校より少ないと想定されるため、史跡地に近い中学校(車で10分以内)で30%とし、同じく距離に準じて比率をかけた。また、小学校の場合は6年生の児童数を中学校の場合は1年生の生徒数を使用した。

その結果、年間の利用者想定数は、小学校1,670人、中学校540人で、合計2,210人の利用者数が想定される。また、1回あたりの利用人数としては、四日市市内の小学6年生の1クラスの最大人数が40人であることから、40人と想定しておく。史跡地での学習やガイダンス施設での学習では約40人を単位として野外・室内での学習プログラムを企画する。

【一般の利用者】

古代の歴史や生活を深く学びながら、創作的な土器づくりや古代食づくりなど実験考古学的な体験学習プログラムを大人向けにも企画する。また、大人向けの体験学習参加者は、久留倍官衙遺跡をはじめとする市内の文化財保護サポーターとしての担い手となることが期待できる。

2) 普及などの活動支援

計画・施工段階からボランティア活動との連携を図り、古代の歴史や生活についてより深めて学習できる学習会を実施することにより、市内の小中学校に出前講座を行う語り部や新しい地域の歴史を発見・研究する歴史発見ボランティアなどの活動につなげる。

イベント事業の推進

古代の役所である久留倍官衙遺跡の発見を契機として、古代の歴史シンポジウムや史跡地を巡るウォークラリーなども行われるようになってきている。また、久留倍官衙遺跡が所在する大矢知では、約200年前(江戸時代末期)から「大矢知そうめん」が作られており、夏には地区で500人ほどが参加して流しそうめんが行われている。

史跡が整備されることにより、史跡地地区やエントランス地区において文化的なイベントや地場産業的なイベントを大矢知の歴史・古代の雰囲気を感じながら楽しめるよう、市民参加による活発な利活用を進める。

利用のプログラム例

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二十四節気等	小寒 大寒	雨水 七草粥 立春	小正月 啓蟄 春分 八十八夜	雛祭り 穀雨	小満 立夏	端午の節句 夏至	小暑 大暑	七夕 立秋 処暑	白露 秋分	寒露 霜降	立冬 小雪	大雪 冬至
平均気温	5.8	7.7	9.5	15.3	20.0	23.5	26.7	27.5	24.2	19.0	13.5	8.5
降水量	109.5mm	82.0mm	131.5mm	158.0mm	158.5mm	225.5mm	239.0mm	169.0mm	50.0mm	198.0mm	192.0mm	50.5mm
四日市市の四季	冬の海鳥 椿	芽吹き 鶯	タンポポ レンゲ	桜	新緑	梅雨	天の川	流れ星 セミの声	台風 秋の七草	虫の声	紅葉	冬景色
暮らしの行事	元旦 初詣 鏡割り	節分 初午 涅槃	彼岸 ひなまつり	花祭り	卯月八日 田植 端午の節句		土用 七夕	盆行事	名月 二百十日 彼岸入	稲刈り	二十三夜	餅つき
市内の既存の祭り・主なイベント等	・どんと祭り	・狐の嫁入り道中	・市内各地の桜まつり(下旬) ・水沢町新茶まつり	・市内各地の桜まつり(月上旬) ・水沢町新茶まつり	・萬古まつり	・キャンドルナイト in すわ公園 ・輪くくり神事	・お諏訪おどり ・石取祭り	・大四日市まつり ・四日市港まつり ・大念仏 ・鯨船行事 ・けんか祭り ・つんつく踊り ・石取祭り ・四日市花火大会		・秋の四日市祭り ・楠健康ふれあいフェスタ	・水沢もみじまつり	
大矢知地区の既存の祭り・主なイベント				・観音寺花祭 (緑華山観音寺)	・地区市民体育祭		・流しそつめんまつり	・十一面観音菩薩祭 (緑華山観音寺) ・盆踊り(各町)		・秋の列大祭 (長倉神社)		
史跡等文化財をテーマとした定期講座、ボランティアガイド養成講座、シンポジウム等	史跡等文化財をテーマとした定期講座、ボランティアガイド養成講座、シンポジウム等											
史跡久留倍官衙遺跡における利用プログラムの例()内は想定開催場所	餅つき大会(東地区) 初日の出と初詣(西地区)	市内文化財めぐりマラソン(全地区)	古代のダンス大会(東・西・エントランス地区) 歌会(西地区) ウォークラリー大会(全地区)	土器づくり大会(全地区) 野点(西地区)	写真撮影大会(全地区) 郷土芸能大会(全地区)	古代の楽器演奏会(西地区) 古代食試食大会(東・西地区)	写生大会(全地区) 昆虫採集(北地区) 句会(西地区) 七夕祭(全地区)	天体観測会(東・エントランス地区) 古代生活体験(西地区) 花火大会(全地区)	野外コンサート(東・西地区) 名月鑑賞会(東・西地区) 文化財サミット(ガイダンス施設)	収穫祭(全地区) 野外演劇会(東・西地区)	木の実拾い大会(北地区)	郷土史研究会(ガイダンス施設)

平均気温・降水量は平成21年のデータ。

関連施設のネットワーク化

久留倍官衙遺跡周辺（天武天皇迹太川御遥拝所、聖武天皇社）や近隣市町村には、関連する文化財や博物館等の文化施設（桑名市博物館、桑名市天武天皇社、朝日町歴史博物館、朝日町縄生廃寺跡、四日市市立博物館、四日市市楠歴史民俗資料館、鈴鹿市考古博物館、鈴鹿市国史跡伊勢国分寺跡・伊勢国府跡、亀山市鈴鹿の関）が点在しており、これらをネットワーク化し相乗効果を図る。

【利用者の想定】

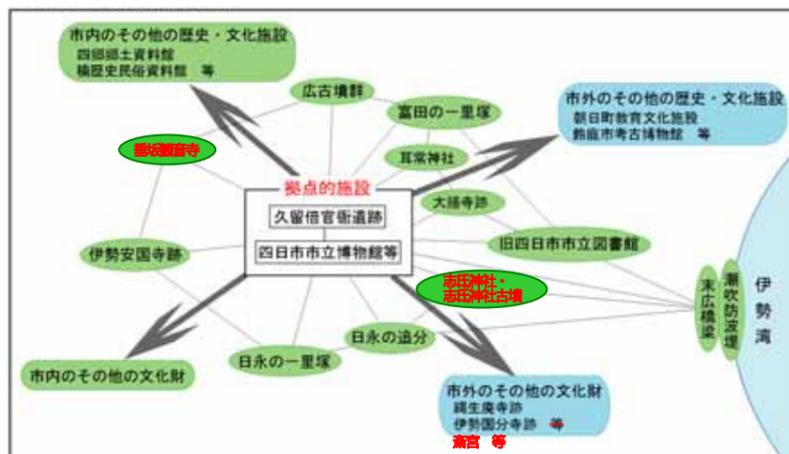
周辺の関連施設の来館者数を見てみると、久留倍官衙遺跡の歴史背景と深い関わりがあり、一番近い施設でもある朝日町歴史博物館は、年平均 4,200 人の来館者がある。また、久留倍官衙遺跡と同様に国の史跡に隣接して設置されている鈴鹿市考古博物館は、年平均 9,500 人の来館者がある。これら 2 つの施設は、久留倍官衙遺跡からの距離に違いはあるものの、久留倍官衙遺跡の見学者と客層が重なることが想定される。四日市市立博物館や桑名市博物館は企画展の内容によっても客層は変動するが、四日市市立博物館は年平均 25,600 人、桑名市博物館は年平均 18,900 人の来館者がある。共に歴史系の博物館であり、久留倍官衙遺跡の客層とも重なりと想定する。久留倍官衙遺跡からの距離が一番離れているものの、久留倍官衙遺跡の歴史背景と深い関わりがある亀山市歴史博物館は、年平均 13,400 人の来館者がある。また、高速道の利用になるが同じく国史跡のガイダンス施設である松阪市文化財センターはにわ館は年平均 12,000 人の来館者がある。

これら周辺施設の利用者が、久留倍官衙遺跡への利用者と全て重なりとは想定できないが、年平均 10,000 人前後の来館者は関連施設のネットワーク化を図ることで想定される。

周辺施設来館者数

市町名	施設名	時間(車)	来館者数			備考
			20年度	21年度	平均	
朝日町	朝日町歴史博物館	10分	4,774人	3,499人	4,200人	
四日市市	四日市市立博物館	13分	28,781人	22,399人	25,600人	常設展示のみ
桑名市	桑名市博物館	20分	20,299人	17,359人	18,900人	
桑名市	六華苑	21分	44,173人	49,402人	46,800人	
四日市市	四日市市立楠歴史民俗資料館	26分	6,397人	6,500人	6,500人	
鈴鹿市	鈴鹿市考古博物館	31分	10,024人	8,943人	9,500人	
亀山市	亀山市歴史博物館	59分	12,905人	13,788人	13,400人	
松阪市	松阪市文化財センター はにわ館	63分	8,727人	14,050人	12,000人	高速利用

時間は久留倍官衙遺跡から車で一般道を移動した場合の所要時間



ネットワーク概念図